

【平成二九年度展示会・関連講演会より】

昭和横浜の構想図・完成予想図

平成二九年七月一六日～九月一〇日

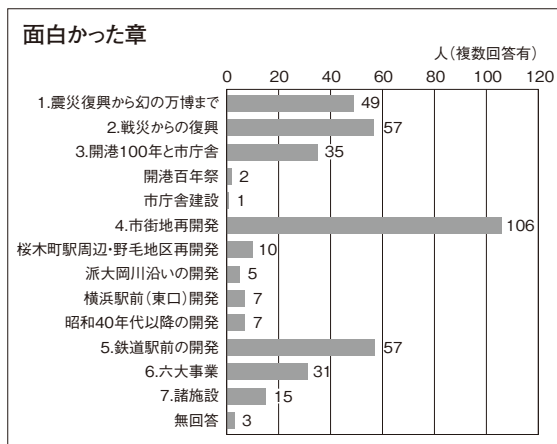
担当 百瀬敏夫

昭和期の横浜市における街づくりや施設建設などにおいて作成されたさまざまなレベルの構想図や完成予想図からそれぞれの時代における少し先の横浜を見る展示会を開催しました。

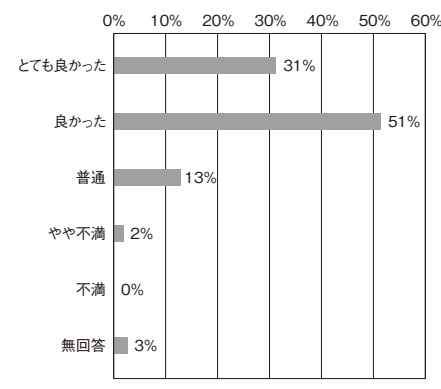
\*なおこの展示は、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館との連携展示「YOKOHAMA地図三昧」の一つとして開催されました。

入場者四三六三人 回答者一五四人

横浜市内在住の見学者が八七%、年齢は、四〇代二二%、五〇代、六〇代は各一六%でした。初めて市史資料室の展示会を見た方は六〇%、二回以上の方は四〇%でした。



展示評価



〈感想より〉

・実現しなかった計画の図面などは見る機会がなかなかないので、そうした計画図を数多く見られてよかった。

・計画したが行なわれなかったものが興味深かった。

・様々な構想を経て今日があることがわかって、かつての風景も見ることができおもしろかった。

・六大事業の素晴らしさを再確認した。「魅力ある街」のベースになっていると考えている。都市景観の視点から高速道路の場所や形態に配慮したのは当時を考えれば画期的と思う。

〈意見・要望より〉

・実際の模型等の展示があると面白いと思われる。  
・各計画が実現したのかしなかったのかが記載されているとより一層興味深く感じられたと思う。  
・できれば「YOKOHAMA地図三昧」と同時期のほうが良かったと思う。

展示関連講演会

平成二九年八月二六日

・都市ヨコハマの未来像

・震災復興からみなどみらいまで

講師青木祐介(横浜都市発展記念館)

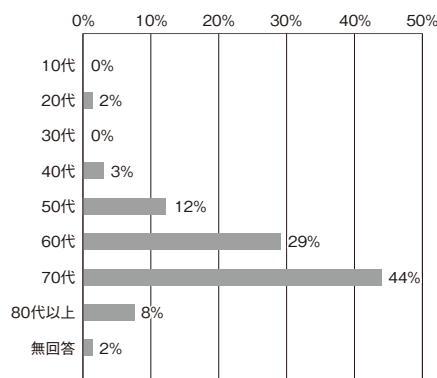
・完成予想図でみる横浜駅東口開発

―昭和三〇年代

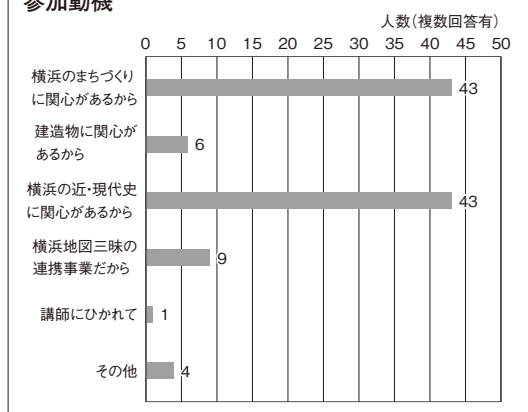
講師百瀬敏夫(横浜市史資料室)

参加者九五人 回答者六五人

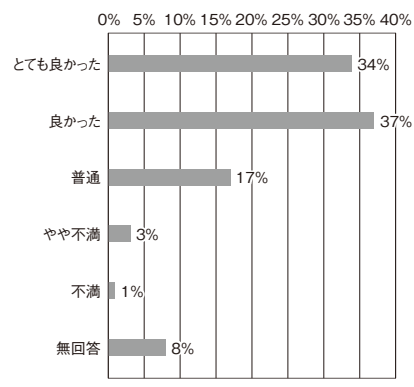
参加者年齢



参加動機



評価



講演会は当日申込制だったため、横浜市内在住の方が九四%、その中でも多い参加者の居住区は、金沢区が一五%次いで西区、保土ヶ谷区が各一三%でした。

〈感想より〉

・関東大震災被災から現みなどみらい21までの横浜中心地域の発展の動きが自分の中で再整理できた。

・横浜駅東口のビルが度重なる変更で完成した経緯がよくわかった。

・地図や図面を豊富に使用しわかりやすかった。

・まちづくりの背景にある人物の紹介がよかった。

〈意見・要望より〉

・質疑応答の時間を設けてほしい。  
・過去の予想図だけでなく、直近の予想図があればもっと興味を持った。

展示会等の内容は、平成三一年三月末に報告書として刊行される予定です。

(川原照美)